



日中合编日本語教材

日本

(上)

大森 和夫 大森 弘子 曲 維 著



大 連 出 版 社

● 本

11

Abstract

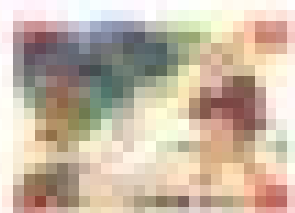
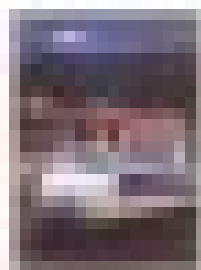


Figure 1

日中合編日本語教材

にほん・につほん 日 本 (上)

「^{ほん}本^{ぶん}文」

大森 和夫(日本・国際交流研究所所長)

大森 弘子(日本・元、季刊誌「日本」編集長)

「^{ちゅうしゃく}注釈^{しつもん}」、「質問」

曲 維 (中国・遼寧師範大学学長補佐)

編集・発行 = 日本・国際交流研究所

大 連 出 版 社

图书在版编目(CIP)数据

日本 (上)/(日)大森和夫等著.-大连:大连出版社,1997.12

日中合编日语教材

ISBN7-80612-469-1

I. 日… II. 大… III. 日语-高等学校-教材 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(97)第 25886 号

日 本(上)

大森和夫 大森弘子 曲维 著

大连出版社出版 新华书店经销

(大连西岗区长白街 12 号) 邮编 116011

辽宁正大信息中心制版

大连海事大学印刷厂印刷

*

开本:850×1168 1/32 字数:280 千字 插页:2 印张:12.5

1997 年 12 月第 1 版 2000 年 7 月第 3 次印刷

印数:15001-23000 册

*

责任编辑:张绪蒲 责任校对:石红薇 封面设计:大森弘子

ISBN 7-80612-469-1/H·24

定价:18.00 元(日本円:2400 円)

まえがき

どの国の外国語教育も、「文法」や「語学」に比重がかかっていて、その国の「文化」を理解するという観点がおろそかにされがちだ。海外の「日本語教育」も同じ問題を抱えている。

その国の文化を理解してもらうことは、外国語教育にとって重要であるだけでなく、国際交流にとっても大切なことである。

本書を作成するに当たって、外国の日本語学習者が「日本と日本人」について幅広く理解してもらうことを第一の目的とした。従って、できるだけ多くの分野からテーマを選び、^{じょう}上編と^げ下編に分けて編集した。「文化理解型」の教材、つまり、「日本と日本人」に関する基本的な知識を身に付けてもらうことが本書のねらいである。

本書の内容は、日本・国際交流研究所が8年間発行してきた「日本語学習者のための季刊誌『日本』」を基に、日本で勉強している留学生や海外の日本語学習者から寄せられた多くの意見や感想などを参考にしてテーマを決め、全面的に書き直し、さらに、「今の日本」を知ってもらう項目を新たに加えた。

本書のうち、大森和夫・国際交流研究所所長と大森弘子・元、季刊誌「日本」編集長が「本文」を担当し、中国・遼寧師範大学学長補佐の曲維・教授(日本・同志社大学に留学。愛媛大学で中国語の専任講

師を務めた)が、海外の学習者向けの日本語教材として活用できるように「注釈」と「質問」を作成した。

本書が、日本理解の良き手引き書、身近な参考書、楽しい教材として、海外の日本語学習者に広く活用されることを心から願っている。

1997 年 12 月 大森 和夫

[著者の略歴]

大森 和夫 = 1940 年生まれ。早稲田大学政治学科卒。

朝日新聞記者(政治部、編集委員)を経て、

1989 年国際交流研究所を設立、所長。

上海朝日文化商務培训中心・理事長。

大森 弘子 = 1940 年生まれ。京都女子短期大学卒。

元・季刊誌「日本」編集長。

曲 維 = 1953 年生まれ。中国・遼寧師範大学卒。日本・同志

社大学に留学。愛媛大学で中国語の専任講師を務め

た。「日本の文字」「新編基礎日本語」「解雇」など著

書、訳書多数。中国日語教学研究会常務理事。遼寧

省翻訳学会副会長。遼寧師範大学学長補佐。教授。

[本書1万部の発行と大学への寄贈]に当たって、「朝日新聞社の援助」、「国際交流基金(日本語国際センター)の助成」、「円福友の会」と藤本幸邦、家高憲三、居山静代、山崎正、井出幸子、大塚安男、野村彰男、恒成巧、薩摩正、菊地芳枝さんら116人の方々の寄付を頂戴した。

※ ※ ※

本書のうち、第四章は大谷健 第五章・第2節は金森和子
第七章・第1節1は茅場康雄 第七章・第1節2は升田淑子
第九章・第1節は居山静代 第九章・第2節は堀江学
第十章の第1節と第4節は上山民栄
第十章・第2節は松田陽子 第十章・第3節は榊原昭二

の各氏に、季刊誌「日本」に執筆して頂いた原稿を、大森和夫と大森弘子の判断で手直しし、書き加えた。従って、本書の内容についての責任は、すべて兩人にある。

※ ※ ※

巻頭のカラー写真のうち、①は「松竹(協力・日本俳優協会)」、②、③、⑤は「東京都」、⑧は「日本相撲協会」、⑨は「トヨタ自動車」、⑩は「岐阜県」、⑪は「福岡市」、⑫は「鹿児島県観光連盟」、⑬は「関西国際空港」の提供による。

※ ※ ※

本書をまとめるに当たって、関係者から直接話を聞いた外、主に次の資料(新聞、書籍等)を参考にした。

入門歳時記(角川書店)。日本の伝統芸能(日本放送出版協会)。今井源衛著「源氏物語への招待」(小学館)。小倉百人一首(桐原書

店)。夏目漱石集(筑摩書房)。宮沢賢治詩集(角川書店)。啄木のうた(社会思想社)。日本の世界遺産ガイド(せとうち総合研究機構)。日本の音風景 100 選(環境庁)。文部統計要覧。通商白書。青少年白書。経済白書。朝日新聞。日本経済新聞。朝日新聞の用語の手引き。

[表紙] 切手(郵政省許可・平成 9 年 10 月 9 日、郵模第 1003 号)
ウスバツバメガ(左上)、厳島神社(左下)
高度経済成長(新幹線・高速道路)(中央)
花さかじじい(ここほれワンワン)(右上)
宮沢賢治(右下)

[題字]大森弘子



①歌舞伎『暫(しばらく)』



②お花見(東京都・上野公園)



③皇居・二重橋(東京都)



④金閣寺(鹿苑寺・京都市)



⑤ 花火大会(東京都・隅田川)



⑥ いけばな



⑦ 姫路城(兵庫県姫路市)



⑧ 大相撲(貴乃花と曙の横綱対決)



⑨ 輸出車の船積み(愛知県東海市・名港センター)



⑩ 鵜飼(岐阜県・長良川)



⑪ 博多祇園山笠(福岡市)



⑫ 屋久島の縄文杉(鹿児島県)



⑬ 法隆寺・五重塔(奈良県)



⑭ 清水寺(京都市)



⑮ 原爆ドーム(広島市)



⑯ 関西国際空港(大阪府泉佐野市)

目 次

第一章【日本の姿】

〔国土と地理と人口〕 (1)

第二章【四季(季語と年中行事・俳句)】(上)

第1節〔春〕 (15)

第2節〔夏〕 (43)

第三章【日本国憲法】 (63)

第四章【日本経済】

〔日本的経営とその課題〕 (73)

第五章【文化】(上)

第1節〔伝統芸術〕 「華道・いけばな」 (86)

第2節〔伝統芸能〕 「歌舞伎」 (104)

第3節〔伝統のスポーツ〕 「相撲」 (114)

第六章【教育】

〔学校教育の歴史・制度と課題〕 (129)

第七章【文学】

第1節〔古典文学〕 1.「源氏物語」 (138)

	2.「万葉集」 ^{まんようしゅう}	(146)
	3.「百人一首」 ^{ひゃくにんいっしゅ}	(155)
第2節〔小説〕	「夏目漱石」 ^{なつめ そうせき}	(165)
第3節〔詩・短歌〕	「宮沢賢治と石川啄木」 ^{みやざわけんじ いしかわたくぼく}	(176)
第4節〔昔話〕	「鶴の恩返し、花咲かじいさん、 桃太郎」 ^{つる おんがえ はなさき ももたろう}	(185)
第5節〔とんち話〕	「皮はたたかれる、殿様の行列」 ^{かわ とのさま ぎょうれつ}	(207)

第八章 【新聞を読む】^{しんぶん よ}

	〔朝日新聞の社説〕 ^{あさひ しやせつ}	(219)
--	-------------------------------------	-------

第九章 【行動様式と生活習慣】^{こうどうようしき せいかつしゅうかん}

第1節〔生活と文化、集団〕	^{しゅうだん}	(228)
第2節〔ガイジン・コンプレックス、欧米志向、謙遜〕	^{おうべいし こう けんそん}	(244)
第3節〔手紙とはがきの書き方〕	^{てがみ か かた}	(267)

第十章 【日本語】^こ

第1節〔文字の歴史〕	^{もじ}	(284)
第2節〔文化的意味〕	^{いみ}	(297)
第3節〔世相語〕	^{せそうご}	(310)

第4節〔慣用句〕	(322)
----------	-------

第5節〔熟語(数字を使った四字熟語)〕	(331)
---------------------	-------

第十一章 【自然】

第1節〔世界文化・自然遺産(姫路城、原爆ドーム、 屋久島など8件)〕	(343)
---------------------------------------	-------

第2節〔音風景100選(オホーツク海の流氷、長良川の鶺鴒、 鯛、鳴門の渦潮など)〕	(353)
--	-------

第十二章 【「白書」で見る日本】

第1節〔通商白書〕	(365)
-----------	-------

第2節〔青少年白書〕	(375)
------------	-------

第3節〔経済白書〕	(381)
-----------	-------

第一章 【日本の姿】

〔国土と地理と人口〕

〔位置〕

日本は、アジア大陸の東側に位置し、南北に長い弓形の島国である。北海道、本州、四国、九州の四つの大きな島を含む6852の島々から成っている。

国土は、おおむね北は北緯45度31分から、南は北緯20度付近まで、東は東経149度付近から、西は東経123度までの範囲に位置し、面積は約37万7819km²(平方キロメートル)である。面積は、中国やアメリカ合衆国の約25分の1。

〔地形〕

国土の地形をみると、61%が「山地」で、高く険しい山や火山が多いのが特徴だ。日本は島国であると同時に山国でもある。その外、「低地」(13.8%)、「丘陵」(11.7%)、「台地」(11%)、「内水域など」(2.4%)だ。

国土の利用状況は、森林が66.6%で、農用地は13.8%。その

外、宅地、道路、水面・河川など。また、国土のうち、民有地(約 16 万 km²)の使用状況は、山林(47.9%)、田(17.5%)、畑(15.7%)、宅地(8.9%)、原野などである。

日本列島は環太平洋地震帯の上にあり、火山活動も活発で、世界でも有数の地震多発地帯だ。

平野は狭くて少なく、川は短く、川幅は狭く、流れは急だ。落差の大きい急流は水力発電に適している。

日本の国土には、3000 メートルを超える山が 21 あるが、すべてが日本列島の中央部を成す本州の中央部に集中している。

本州の中央部に飛騨・木曽・赤石の三つの山脈があり、3000 メートル以上の山々がそびえている。それぞれ北アルプス・中央アルプス・南アルプスと呼ばれ、それらを総称して日本アルプスと呼ぶ。

【まわりの海】

日本の海岸線は出入りが多く、複雑である。

まわりには、オホーツク海、日本海、太平洋、東シナ海が広がっている。陸地に近いところは海底が平らで、深さが 200 メートルぐらいまでの大陸棚が広く分布している。

太平洋岸では、暖流の黒潮(日本海流)が北上し、寒流の親潮(千島海流)が南下する。この二つの海流は、夏は三陸海岸